



わかば

2020. 8. 8
(令和2年) 第20-15号

文責 校長 保谷 力

ホームページ <http://www.shokookai.org/gakkou.htm> 毎週火曜日更新

教育目標 「帰国後、日本の教育に円滑に適応できるよう、日本の学校における学習指導要領に沿った国語、算数(数学)の学力の維持、併せて生活・生徒指導を行う。」

重点目標 一人一人の笑顔輝く学校づくり～期待登校・満足下校～

最適時期

校長 保谷 力

およそ2週間の夏休みを終えて、いかがお過ごしでしょうか。日本国内では、長かった梅雨も明け、これから猛暑の日々が続きます。今年は「withコロナ」の中で迎える夏です。マスクを着用しての暑さ対策には厳しいものがあります。感染予防を気にするあまり、熱中症になったのでは、元も子もありません。どうぞ、子供たちには周囲の状況等を考え適切なご対応をお願いします。

また、後期に向けての学習活動、学校運営に引き続き、ご支援・ご協力をお願いします。



さて、皆さんは『最適時期』という言葉聞いたことがあるでしょうか。

ある事柄や道徳的価値、それに運動技能に至るまで、学齢期の子供たちが「何か」を習得するのに最も適した魔法の時期があるということです。ところが、この時期を逃してしまうと同じ事柄でも、なかなか得ることが難しくなり、ともすると、そのことがその人の人格形成や将来における価値基準の根幹に影響を及ぼすという大切な時期のことです。

とは言うものの、「立てば歩めの親心」と申します。最適時期など気にせず、ついつい、先々を予測しながら、敷いた線路の上をまっすぐに歩かせたいものです。子供の頃はたくさんの事柄に興味や関心を示します。特に小学校3、4年生ともなると、出会う全てのことに関心をもち、何でも挑戦したくなる時期です。その割に、すぐに飽きて別のことを始めたくなりお家の方に叱られる、いわゆる「ギャング・エッジ」と呼ばれるのもこの頃です。しかし、このギャング時代に大人から受ける影響は大変大きく、学校の先生や習い事のコーチなど、家族以外に関わる大人たちに強く関心をもちます。そして、一旦気に入ると神様のように慕って、その人の考え方や生き方を学んでいきます。

私たち大人は、無駄なことをせず、効率よく興味をもったものを長く続けてほしいと願います。しかし、子供たちは、一見すると無駄に見える多くの出会いによって、将来を貫いて取り組む何かを見つけ出します。この行為は、大人から見ると実に非効率的であり、無駄も多く私たちを悩ませます。しかし、こうした出会いこそが、人格の基盤を形作るための最適時期になっているのです。

さて、私事で恐縮ですが、今月半ばに渡米が決定しました。しばらくは、オンラインによる学習が続きますが、授業観察などを通して子供たちとつながって行きたいと思います。